

2 1 2

こんにちは。塾長の大井です。

5期生 M さん受験戦記第 4 回です。

それでも現実には甘くありませんでした。

中学受験に限らず、頂点を目指す勝負において、敗因はたった一つで十分なのです。逆に、受かるには 100 も 1000 も要素を積み重ねなければならない。

M さんは国語で大健闘しましたが、理科の明らかなミスなどもあり、桜蔭で涙を吞みました。

桜蔭発表日の 2/2 に受けた豊島岡。言わずと知れた桜蔭に次ぐ女子最難関校です。ここでは当然桜蔭・JG の猛者たちがみんな併願してきます。それでも豊島岡を取るなら、ここが最大のチャンスです。田宮も朝応援に行き、今日決めろと伝えました。

TOP に帰ってきた M さんの感想は、出せたと思うけど結果は読めないとのことでした。

この日ムードメーカーの S くんが城北中に受かり、キャプテンの TR くんも本郷中に合格しました。そんないい流れの中でしたが、M さんは豊島の初日を落としました。

むらっ気のある M さんは、ある教科を取ると他の教科で落とし、この日も 4 科を揃えることができなかったのです。あまりにも痛い 2 連敗でした。

翌 2/3、豊島岡 2 日目。ここからは一度涙をのんだ子たちばかりの勝負です。当然相手に勝つ前に自分に克たなくてはなりません。

この日、私は桜蔭に続いて M さんの応援に駆けつけました。強く握手を交わし、合格を祈りました。

帰ってきた M さんの手応えは、算数をはじめ悪くないとのことでした。

この日、マイペースを貫いた Y くんも慶應中等部で会心の答案を作り、見事最大の難所である一次を突破しました。

そして、クラスのみんなでパソコンを囲み、固唾を飲んで M さんの合格発表を見ました。

結果は…、不合格でした。

そして、この最後の1日が、Mさんの本当の本当の始まりでした。

(次回につづく)

2020年6月30日

大井雄之